

奈良県 野迫川村（林業従事者の研修及び資格取得支援事業）

- ▶ 野迫川村は、総面積の97%に相当する約15,000haが森林であり、林業は村の基幹産業である一方で、木材価格低迷等による搬出量減少が続く中、林業の担い手の高齢化と減少が進み、林業事業体の存続が課題となっている。
- ▶ このため、村では、森林整備を担う林業従事者の確保に加え、スキル向上や意欲喚起を目的とした対策を進めている。令和6年度には研修や資格取得を支援する新たな補助金制度を整備し、近年注目されているアーボリスト（※）の養成講座やドローン技術に関する研修等も補助対象に含めた。

※「アーボリスト（樹護士）」 ロープを利用した木登り「ツリークライミング」の技術を応用し、樹木の維持管理を行うスペシャリスト。Arbor（=高木）という名称にあるように、重機をなるべく使わず、木の表面を傷つけずに高い木に登り、問題のある木の危険を安全に取り除く欧米発祥の技術であるが、重機を使うことなく高所で作業できるため、住宅地や神社、寺院の境内など近くに建物がある現場で強みを発揮。林業と造園業の要素もある職種として若者の注目を集めており、高知県の林業大学校などで若手育成を始める動きもある。

事業内容

林業従事者研修及び資格取得等促進支援事業費補助金の創設

- 村内の林業従事者らが高度な技術や資格を取得するための講習の受講等に要する費用について補助金を交付。通常の技能講習、特別教育、安全教育のほか、民間事業体（アーボリスト®トレーニング研究所=ATI）が行うアーボリスト養成講座等も対象。

全額補助。上限300千円/人

【事業費】1,051千円（全額譲与税）

【実績】補助対象延べ人数：22人（3事業体）

取組の背景

- 本村では、林業の担い手の高齢化と減少が進み、林業事業体の存続が課題となっており、その対策を進めている。
- これまでにも、林業関連の物品購入への補助や、事業主を対象とした雇用育成経費補助制度を導入してきた。



（講習参加者による高所伐採）

（村内で開催した刈払機取扱作業安全衛生教育）

工夫・留意した点

- 国の「緑の雇用」制度の補助対象とならない資格等を補助対象とした。
- 現場の林業従事者の声を取り入れ、希望や実情に即した事業設計とすることで施策の実効性を高めた。
- 資格取得後5年以内に村内事業体を退職した場合、補助金の全額を返還する規定とし、これにより村内の担い手の確保と就業先への定着を図っている。
- 奈良県森林組合連合会（奈良労働局登録教習機関）と連携し、村内においても出前講習を実施することで、受講者の移動負担を軽減した。

取組の効果

- 林業従事者から好評を得ており、さらに資格を活用した新規事業のアイデアが寄せられる等、自発的な事業展開への芽も生まれている。
- 意欲を持続できるキャリアパスを確立することで、離職防止に寄与するだけでなく、新たな雇用の創出を後押しすることが期待される。
- 技術習得だけでなく、安全意識の向上、労働災害抑止にもつながっている。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：58,957千円	②私有林人工林面積（※1）：8,190ha
③林野率（※1）：98.3%	④人口（※2）：357人
	⑤林業就業者数（※2）：24人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より